

中国の学校と社区の連携による「素質教育」の推進

—天津市和平区における社区教師制度をてがかりにして—

賈 燕妮*

1. 本研究の目的

1980年代以後の改革開放政策¹⁾の実施に伴い、中国は市場経済に移行し、経済の急速な発展とともに、新しい青少年問題が出現している。それに対して政府主導の改革がしだいに進展してきた。基礎教育の改革の中で、一番注目されるのは「素質教育」²⁾だといわれている³⁾。1993年2月、中共中央・国務院⁴⁾による「中国教育改革及び発展綱要」(以下「綱要」と略す)では「小中学校における基礎教育は応試教育という教育モデルから、国民の素質を高める教育モデルに移行していくべきである。全面的に児童生徒の思想道徳、文化知識、科学技術、労働技能や身体・心理素質を向上させ、児童生徒の生き生きとした発達を促す」と記された。その後、青少年の全面的な素質を高めることを目指す「素質教育」が積極的に取り組まれてきている。

同「綱要」では、「小中学校は近隣の企業・事業単位、街道あるいは村民委員会と社区教育組織を形成することが奨励され、学校の管理運営に地域の団体組織の参加を促し、小中学校の特色と一致する教育と社会との結びつきを探求する」と指摘された。青少年の教育を学校のみならず、地域参加型の教育づくりを図ろうとする教育体制改革の動向が看取される。

1980年代の中期、中国の上海市や天津市、北京市など大都市で社区(community)が学校教育を支える動きが出現した。1986年に上海市真如中学校は

* 教育基礎学専攻 大学院生

「真如中学校社会教育委員会」という社区教育組織を創立しており、現代的意味における学校と地域社会との連携は社区教育とともに展開してきた。社区教育の研究者厲以賢は「社区教育の推進」⁵⁾において、1993年を境として社区教育における学校と社区との連携の形態が変化したことを指摘した。1993年以前の社区教育の初期段階は小中学校の児童生徒を主な対象とし、青少年の学校外教育を重視し、社区にある機関、企業、組織などが物質と精神の両面から学校を支援することを目的としていた。1993年に北京で開かれた全国社区教育研究会で、厲は「社区教育と社区発展との結合、社区教育と教育管理体制改革との結合、学校教育と社会参加との結合」という社区教育の新しい理念を提出した。これを契機にして、現在の社区教育は社区に住んでいる子どもから成人、高齢者まで全ての住民を対象とし、学校と社区が相互に支援することが主な形態になった。厲は社区教育の転換に応じて、「知識中心・教科書中心・授業中心」という閉鎖的な学校観を批判しており、学校と社区との相互交流を強調した。

2000年以後、「素質教育」における学校と社区の連携に関する研究は多数著されているが、中でも小中高校の教師によって書かれた各学校の実践分析は多い。例えば、王淑敏「学校と社区における相互奉仕の実現」⁶⁾や倫文強他「学校と社区教育の一体化における実践と研究」⁷⁾、蒋懷峰・呉金明「学校・家庭・社区の連携による德育の新しいモデルの構築」⁸⁾は北京市や上海市における学校と社区の連携の事例について、学校内部の管理体制や教師の働きかけ、学校開放といった学校の視点に焦点を絞って論じている。これらの論文において、社区は学校の「第二教室」としてみなされ、学校と社区との連携により、「愛国教育」や「平和教育」、「伝統的美徳に関する教育」などの活動が行われることで、青少年の思想道徳を促進するという論点が共通して論じられている。

このような実践分析が蓄積される一方で、学校と社区の連携に対する理論的な検討は少ない。学校と社区の連携の全体像を理論的に考察した代表作として、劉淑蘭『学校と社区との連携』⁹⁾がある。劉による研究では、学校が社区との協力を通じて、子どもたちの全面的な発達を促進する一方で、社区が学校の機能を利用し、社区住民全体の資質を高めるという学校と社区との相互協力関係が明らかにされた。このような劉の着眼は検討に値するであろう。その中で、劉は「素質

教育」の定義における各種の論説と「素質教育」の特徴、内容から、学校と社区の連携の必要性を考察している。また、劉は区—街道—学校という三つのレベルで社区教育組織を形成することを学校と社区の連携の有効な方法として提唱した(図1参照)。しかし、劉が主な対象としている学校と社区の連携は街道という人口5万人程度の規模をもつ広域区に基づいて、学校が街道にある企業や団体、組織と連携する形態である。しかし、中国社会の最末端の都市行政区である街道の下に、自治組織である「社区」があり、ここに組織される社区居民委員会は社区居民にとって最も身近な行政サービスを提供している。つまり、青少年は社区に住んでおり、学校外の大半は社区で過ごすため、社区は青少年の身近な成長空間だといえる。劉が街道という広域区に着目する視点に対して、本稿では一番基礎レベルの社区に注目する。

以上の先行研究を踏まえると、中国の「素質教育」及び学校と社区の連携に関する先行研究はほぼ学校内部に焦点をあてて行われており、社区に焦点をあてた研究は行われていない。また、実証的研究の蓄積も十分であるとはいえない。各地では、学校と社区との連携に対する言い方も多様であり、例えば「学校・社区教育共同体」、「学校教育と社区教育の一体化」、「学校と社区の協働」などが挙げられる。

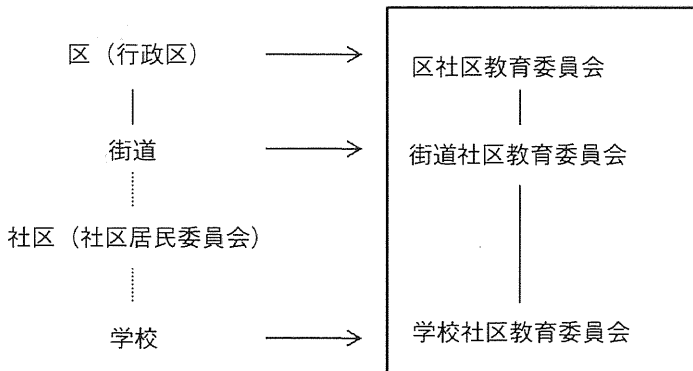


図1 社区教育組織の三級システム略図(筆者作成)

以上より、青少年の健全な成長を促進するため、学校外の地域社会における子どもの日常生活レベルでの活動を視野に入れて実証的に検討する必要がある。本稿は、「素質教育」改革の展開を明らかにした上で、小中学校と社区の連携という視点から中国都市の最末端レベルの社区の教育資源を活用することで青少年教育を改革することの有効性を解明することを課題とする。具体的には、社区教師という仕組みによる連携の方法に焦点をあてる。なお、本稿でいう青少年とは主に小中学生のことを指している。

2. 現代中国の青少年問題

中国では今日、社会変化によって新しい教育問題が出現している。「文化大革命」(1966—1976年)の10年間、教育は階級闘争の道具とされ、「勉強することは無用である」という論調が高まって学校教育は破壊され、青少年教育は混乱に陥った。「文化大革命」以後の国家の教育政策では、いち早く重点学校の体系が整備された。しかし、教育が重視されるようになってきた一方で、都市部において、競争原理に基づく学歴社会化が進行した。学校教育において、中国では詰め込み形式の「応試教育」(受験教育)が行われている。小学校でもハードなスケジュールの中、授業が行われている。陳至立(元教育部部長)は2001年の「児童生徒の学習負担を減らす」テレビ会議で、多くの小中学校は毎日授業7、8コマと朝の自習と夜の自習2コマが設置されていると指摘した。また、土日及び休日に補習もよく行われている。その上、三日間の祝日期間中、ある小学5年生の宿題は33ページの練習問題と8本の作文が課されたという事例も報告された¹⁰⁾。このテレビ会議によれば、青少年は在校時間が長く、教室に閉じ込められて自然や社会と触れ合う機会が少なく、学習生活が単調で閉鎖的な状況におかれていることが分かる。公式な会議の場でさえこう述べられており、実際の児童生徒の学習負担はもっと過重であると推測される。一方で、青少年の学校外生活の貧しさもよく指摘されている。2005年に中国青少年センターによって実施された「中国青少年の学習と生活における現状及び期待」のデータからは、15.8%の小学生、29.8%の中学生が夏休みの生活に満足していないことが分かる¹¹⁾。満足していない理由として、小中学生とも「活動場所がない」という理由が最多である。その他、「友達

がない」、「生活に変化がない」、「精神的にむなしい」などの理由が挙げられている。

その結果、青少年は過重な学習負担に苦しみ、様々な荒廃状況を生み出す原因となっている。怠学、暴行、犯罪など、青少年の荒れた状況が社会問題化した。中国公安部の統計によれば、刑事事件において、1999年の未成年者の割合は11.9%であり、2003年には13.5%に増加した。そのうち、1999年には5.4%だった15歳未満の未成年者の割合は、2003年には6.3%に増加している¹²⁾。

さらには、この荒廃状況は一人っ子政策と相まって、「学校制度以外に立身出世の手段を持たない都市民衆が、一人しかいない我が子の学業成績に、その将来への期待をかけることで」¹³⁾増幅された。1979年からの一人っ子政策により、多くの子どもが親に過度に依存しており、日常生活能力や独自に問題を解決する能力がかなり欠如していると指摘されている。その性格は自己中心的になりがちであり、連帯性、社会性に乏しいことが特徴で、1980年代、涵逸は一人っ子たちを「小皇帝」¹⁴⁾と呼んだ。また、「四二一」総合症にかかるとの指摘もある¹⁵⁾。「四二一」総合症とは家庭の中で子どもは父母2人と祖父母4人からの期待に応えなくてはならないので、異常な心理行為が出現しやすいという現象を指している。その後、国民の一人っ子問題への関心はマスコミの数多くの報道によりますます高まった。特に孫雲暁の「サマーキャンプの勝負」¹⁶⁾というルポの掲載を契機に「教育大論争」に発展した。1992年に内モンゴルのウランチャブモン草原で日中の子どもによってサマーキャンプが行われた。孫はサマーキャンプで中国の子どもが自立能力や苦しみを堪え忍ぶ精神、意欲など様々な面で日本の子どもたちと比べて弱いと述べた。日本人の参加者の「この世代の（中国の—引用者）子どもは私たちのライバルにはならない」という一言が中国の教育界で激しい議論を引き起こした。国家教育委員会¹⁷⁾基礎教育部の責任者は「『サマーキャンプの勝負』は中国の青少年の現状をよく表しており、学校、家庭及び社会における教育は青少年を育成するプロセスにおいて軽視できない問題を反映している」と述べた。また、その責任者は「知育」中心の教育方針を批判し、意志・品格・心の育成を強調した¹⁸⁾。

3. 「素質教育」による学校と社区との連携

一人っ子問題に伴う新しい青少年問題の生起を背景に、中国政府は「応試教育」の是正を狙いとして、「素質教育」を提唱した。「素質教育」の実施は実践の中で絶えず模索されている過程にあり、それに対する教育研究者の認識も多様である。中国の教育改革は殆ど政府が先導する改革であるため、本稿では「素質教育」改革の展開を、主に中共中央、国務院及び教育部の通達などの分析を通して検討する。

前述のように、1993年の「綱要」によって初めて基礎教育は「素質教育」を基本的方針とすることが明示された。その後、各教育新聞でも「応試教育」に対する批判がなされ、「素質教育」改革が提唱されはじめた¹⁹⁾。また、「綱要」の「教育方針を徹底する」部分では、「全社会は青少年の健全な成長に関心を持ち、社会教育と家庭教育と学校教育を密接に結合する局面を形成する」と規定されている。この条文から、学校と社区の連携を推進するという方針が示された。しかし「綱要」は「素質教育」の内容を明確に定めていないため、教育界における「素質教育」に対する理解はさまざまである。定義でさえ四、五十種類あるという識者もいる²⁰⁾。

この状況に対して、1999年に中共中央・国務院は「教育改革の深化と素質教育の全面的な推進に関する決定」（以下99「決定」と略す）を公布し、「素質教育」の全面的な推進政策を本格的に打ち出した。99「決定」では「素質教育」の主旨、重点と養成目標が明記された。その第一条は「素質教育の実施は、党の教育方針である」と規定しており、「素質教育」は国家の教育方針として位置づけられた。「素質教育」の内容は、思想道德教育²¹⁾(徳)・知力教育²²⁾(知)・身体資質教育²³⁾(体)・美感教育²⁴⁾(美)・労働技能教育²⁵⁾(労)が示され、それらのバランスの取れた教育による全面的な人間性の発達が目指されている。その中で、青少年たちの創造的精神と実践能力の育成が特に強調されている。教育の目標は「応試教育」で重視された知識の教え込みから児童生徒の実践能力を向上させる方向に転換したといえる。青少年たちは多様な社会実践を通じて、青少年たちの生活経験を豊かにし、人間性の形成・発達を促進することが求められている。そして、社会実践を実施する体験の場は学校だけではなく、むしろ社区に求められていると考えら

れる。

また、99「決定」は「素質教育」の中でも思想道德教育を重視している。従来の「教え込み」の思想道德教育の方法は、子どもたちに守らなければならない道德命令を出しているにすぎず、形式的な教育にとどまっていた。これに対し99「決定」では、「学校は德育の教え方を改善し、德育と児童生徒の生活及び社会実践を結びつけ、実効的な効果を追求する」ことが示された。2003年に中国教育部が発表した「義務教育における思想道德の課程標準」では、「成長中の私、私と他人との関係、私と集団・国家及び社会との関係」という三つの柱が設けられた。それゆえ、思想道德教育は学校だけに頼ってはできない。例えば、人間関係に関する内容は子どもたちの日常生活と結びつけられて、教えられてこそ効果がある。生活の場面や人間関係の中で他人との協力や互いに助け合う精神を養い、他人を尊重することを実践させるのは重要だと考えられる。青少年は社区に住んでいるのだから、社区の環境は青少年にも影響を及ぼす。社区は青少年たちが育つ環境として重要である。

このほか、子どもの徳・知・体・美・労の全面発達を促進するための措置として、政府は「減負」（児童生徒の学習負担を軽減する）プロジェクトを実施している。1995年に学校五日制が実施され、2001年に教育部が出した通知²⁶⁾では、夏休み、冬休み及び祝日を含めて、青少年には年間13週間の休日があると規定されている。つまり、子どもたちの余暇は増大しており、「学校外」に学校での学習圧力を軽減する自由時間の活用が求められているのである。しかし、子どもの自由時間を確保する一方で、地域における子どもの学校外の活動を豊かに展開するため、地域社会、特に子どもが住んでいる社区は何をすべきかが問われているのである。長時間テレビ視聴やインターネットすること、ゲームセンターで時間をつぶすこと、怠業などが増えないように、社区における子どものための施設や指導員体制の整備充実が求められている。

以上より、「素質教育」を促進するためには、学校と社区の連携により、社区での多様な実践活動を通じて、青少年の実践能力と社会性を育成することが目指されている。

4. 天津市和平区の社区教師制度

それでは、中国の学校と社区の連携の課題に対して、実際にどのような連携の仕組みがあるのか。中国では学校と社区の連携を促進するため、そのコーディネーター役を務める社区教師の派遣制度がある。本稿では天津市和平区に着目する。その理由は以下の二つにある。第一に、天津市和平区は社区教師制度の実施にあたって、マスコミに度々報道されており、最も注目を集める地域だといえる²⁷⁾。例えば、「中国教育報」の記事「天津市和平区—学校と社会と家庭との架け橋になる社区教師—」²⁸⁾では天津市和平区崇仁里社区の社区教師の実践が報道された。崇仁里社区の社区教師は天津耀華中学校と連携し、社区居民委員会で青少年の社会実践活動を行った。社区教師による学校と社区の連携活動によって青少年の知識分野を広げ、学校外生活を豊かにしたと評する記事は多い。第二に、学校・家庭・社区の「三位一体」による青少年の「思想道德教育」推進を特色とする天津市和平区は、2005年に「全国区域教育発展の特色模範区」に選ばれた。和平区における学校と社区の連携による「素質教育」の推進実践は国家から高い評価を得たといえるだろう。

天津市は中国の四つの直轄市の一つであり、華北平原の東北部に位置しており、中国北部の最大の沿海開放都市である。天津市の面積は約11,760平方キロで、13ヶ所の区と3ヶ所の県により構成されている。和平区は天津市の中心にある一つの区である。面積は約9.9平方キロ、常住人口は約48万人（2008年現在）である。区—街道—社区という中国の都市区画に対応して、管理機構は区政府—街道弁事処—社区居民委員会がある。和平区は6ヶ所の街道弁事処と60ヶ所の社区居民委員会により構成されている（表1参照）。以下、社区教師制度の概況を整理したうえで、社区教師によって各社区で行われている事業を考察してみたい。

①和平区の社区教師制度の導入過程

和平区では、社区のすべての居民の素質と生活の質を高めるため、多様な社区教育活動が展開されてきた。しかし、これらの活動はほとんど社区居民委員会の職員により行われており、社区教育に関する教育専門人材の不足が問題になった。特に社区における青少年教育の欠如について、程長海（社区教師党支部書記）

表1 天津市及び和平区の概要

	位置	面積	行政区画	常住人口	その他
天津市	華北平原の東北部	11,760km ²	13ヶ所の区と3ヶ所の県	1,115万人	中国の四つの直轄市の一つ。中国北部の最大の沿海開放都市
和平区	天津市の中心地	9.9km ²	6ヶ所の街道弁事処と60ヶ所の社区居民委員会	約48万人	小学校は31校、中学校は30校

天津年鑑社編『天津年鑑』（2008年）をもとに、筆者作成

は以下のように指摘している。

「経済転換期の中国社会では、青少年に対する社会の教育機能は弱くなった。『青少年は詰め込み形式の勉強から解放され、社区に入って、社会实践を行おう』というのはスローガンにすぎない」²⁹⁾。

以上の現状に対して、和平区教育局と区政府が連携し、社区教師制度を提案した。2001年に、和平区教育局は全区の幼稚園と小中学校から、優秀教師を選抜し、社区居民委員会に派遣した（図2参照）。社区教師制度は学校の豊かな教育資源（教師）を活用し、社区教育における教育人材の不足の問題を解決することで、学校教育と社区教育との連携を推進すると考えられる。

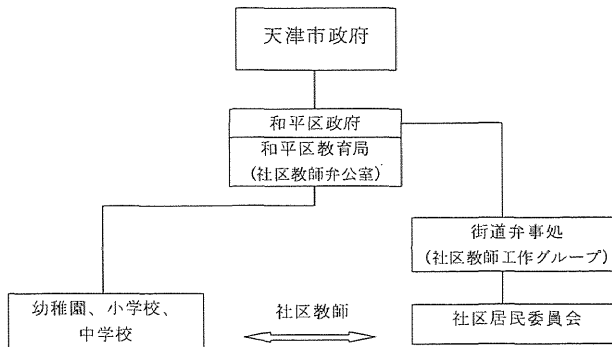


図2 天津市和平区社区教師制度のイメージ図（筆者作成）

② 社区教師の派遣手順

社区教師は幼稚園、小中学校の校長から推薦され、社区教師弁公室の面接を受け、1週間の研修に参加し、研修に合格したら各社区居民委員会に派遣される。また、社区教師の資質を高めるため、社区教育の理論知識やコンピューター技能、論文を書く技能、問題を解決する能力などを訓練する研修を行っている。社区教師の教員研修は学期ごとに1回実施されている。

③ 社区教師の組織と勤務体制

和平区の社区教師組織は区—街道—社区居民委員会という三つのレベルの社区ネットにそって、和平区教育局社区教師弁公室—各街道弁事処の社区教師工作グループ（街道レベル）—社区教師（社区居民委員会レベル）により構成されている。

2009年9月現在、和平区の社区教師は74名である（表2参照）。社区教師の指導機構は社区教師弁公室（弁公室は管理事務を取り扱う部門）である。また、共産党組織との関係でいえば、社区教師弁公室に並行して、2006年2月に共産党社区教師党支部が設立されている。ただし、和平区の社区教師弁公室の場合、党支部のメンバーと行政指導者のメンバーとが重複して機能している³⁰⁾。社区教師弁公室の下に各街道で社区教師工作グループが設置されており、組長1人、内務1人、副組長1人によって構成されている。組長と内務は街道弁事処で働く。副組長は社区居民委員会の社区教師の仕事を兼職し社区居民委員会で働く。社区教師工作グループの下に基本的には各社区居民委員会に社区教師1人が派遣されているが、区の面積及び人口構成に基づいて隣接している二つの区を担当する社区教師もいる。

表2 和平区の社区教師の特性

社区教師 弁公室	社区教師工作 グループ (6街道弁事処)	社区教師 (60社区居民委員会)	男：女	共産党 党員の比率	平均年齢	合計
6人	12人	56人	2：3	12～15%	45歳	74人

「社区教師統計表（2009-2010年）」をもとに筆者作成

原則として、社区教師は1年間ごとに交代し、社区教師工作グループの組長職務以上の教師は2年間ごとに交代する。社区教師活動の順調な展開を保証するため、社区教師自身の希望により、実際には1年で交代するのは社区教師の1/3である。給料と待遇は学校の教師と同等で、勤続年数も連続して計算される。社区の勤務経験がある人、あるいは社区での勤務態度が高く評価された人は学校で優先的に昇進する奨励制度がある。以下では、各社区居民委員会に配置された社区教師を中心に検討を進める。

社会各界の教育資源を利用し、各組織の協力を得やすくするため、社区教師弁公室は社区未成年者における教育議事会（以下、議事会と略す）を設置した。議事会の構成員は和平区及び天津市において青少年教育に関する機関の成員である。2009年度の議事会の構成員から見ると、天津市「延安精神」研究会、共青团和平区委員会、和平区精神文明弁公室³¹⁾、和平区検察院、和平区公安局、幼稚園、小中学校、街道弁事処といった部門の指導者24人を含んでいる。議事会は学期ごとに定期的に検討会を開き、和平区の未成年者に関する学校外文化活動の任務と計画、事業、方法について協議する。この制度によって、社区教師が教育活動を組織する際に、社区にある各部門、単位の協力を得やすくなったと評価される。

④社区教師による事業内容

社区教師は一年間に最低限実施すべき事業回数が規定されている（表3参照）。ここでは、具体的に、社区教師が行った事業内容を説明する³²⁾。取り上げる事業を表4に示す。

表3 社区教師の勤務

青少年教育活動の展開 (一年間において最低限の要求 ³³⁾)			
1、2学期(10ヶ月)	夏休み	冬休み	合計
20回(毎月2回)	8回	3回	31回

『和平区教育局社区教師ハンドブック』（2008年8月）をもとに筆者作成

表4 社区教師による事業（一部）

プログラム		事業内容
1) 学校の授業支援	北京オリンピックは私と共に	クラス会
	「五老」を招聘する	学校の校外指導員
2) 地域活動の組織化	「楼門」活動	社会体験
	青少年科学実践基地	実物体験
3) 保護者及び親子対象	一日母になる	家事体験
	母サロン	親子体験
4) 福祉	「愛心クラス」活動	遊びと学びの場づくり

『事例集』（2008年）及び社区教師弁公室と社区教師に対するインタビュー調査（2010年3月9日—11日）記録より筆者作成

1) 学校の授業支援

社区教師は学校の授業を支え、活動を組織する。「北京オリンピックは私と共に」は、衛華里社区の社区教師が第61中学2年1組のクラス会を担当した事例である³⁴⁾。2年1組の担任教員はクラス会で北京オリンピックを題材にした演芸大会の形で愛国教育を行うことを決めた。演芸の準備について、担任教員は衛華里社区の社区教師に依頼した。生徒たちは放課後、社区の施設と設備を利用し、社区教師の指導のもとで、合唱や演奏朗読などを練習した。そして学校のクラス会でその成果を発表した。このように、社区教師は学校の授業を支援することで、学校のニーズを把握し、地域での適切な活動が企画できる。加えて、子どもは学校で社区教師の支援授業を受けているから、社区教師を知っており、社区での事業に参加しやすいというメリットも考えられる。また、社区教師は社区の「五老」³⁵⁾と呼ばれる高齢者に関する情報を社区にある学校に伝える。学校は経験豊富な「五老」を招き、学校の学校外指導員を担当してもらっている。

2) 地域活動の組織化

社区教師は青少年のニーズに応じて、青少年の社会实践の場を設けている。例

えば「楼門」³⁶⁾活動がある。これは、社区の少年先鋒隊員、共産主義青年团团員たち³⁷⁾が「楼長」の仕事に協力し、社区の弱者を助け、楼門の清潔を保ち、清潔費を徴収し、掲示板を編集し、伝統的な祝祭日に関連活動を行うものである。「楼門」の選定について、社区教師は社区居民委员会の協力を得て、各「楼門」の居民の状況を把握したうえで、「楼長」に対する評判が良く、「楼門」に住んでいる居民構成が多様で、かつ退職教員がいることを優先的に考慮し、活動を行う「楼門」を選定している。当初、多くの居民は青少年に「楼長」の仕事をやってもらうのは面倒であるとして反対した。社区教師はまず青少年に関心をもつ退職教員から協力を得て、事業の目的や内容について辛抱強く居民を説得した。このような社区教師の働きかけの結果、「楼門」の居民全員の支援を得て、「楼門」活動が始まった。「楼門」活動を通して青少年が社区に関心を持つようになり、良好な生活習慣や思いやり、責任感を育成することにつながったという。

また、社区教師は青少年の体験の場も設けている。例えば友誼里社区では、社区教師は天津市農学院の協力を得て、天津市農学院に青少年科学実践基地を建設した³⁸⁾。社区教師は区内の2小学校と1中学校と連携し、児童生徒を定期的に青少年科学実践基地に引率している。春には、子どもたちに田植えを体験させ、秋には、農作物の収穫の喜びを体験させる。さらに、活動に参加している小中学校では、天津農学院の教授を招聘し、生物教科等を担当してもらっている。この事例から、社区には多様な人材が存在し、実践や体験を可能にする「本物の教材」がたくさんあることが改めて確認される。青少年科学実践基地のような地域の人材や「教材」などとふれあうことにより、学校で学んだ教科知識を社区で実践し、身近なものとして感じることができると期待される。

3) 保護者及び親子対象

社区教師は親に対する事業や親子一緒に参加できる事業も組織する。「一日母になる」では、子どもは買い物や食事、洗濯など、母が担う家事を一日担当した³⁹⁾。「小皇帝」といわれる一人っ子たちは溺愛され、食器を洗うことすらできないと言われる。この活動を通して、子どもの生活能力・自立能力のなさに問題意識をもつ親が出てきた。

また、受験勉強に苦しんでいる子どもの姿と比べ、活動に参加している元気な子どもたちの姿が親の意識を変えることもある。社区教師が青少年活動を行うことにより、子どもの受験勉強が遅れるとして社区教師の活動を理解しなかった親が、積極的に社区の青少年活動を支えるようになったという事例が文化里社区での「母サロン」活動を通じて見出されている⁴⁰⁾。このような親の教育観の転換にも社区教師の活動は役に立ったと考えられる。

4) 福祉事業

国家の「減負」プロジェクトを実行に移しつつある和平区では、火曜日あるいは金曜日の午後、2コマだけ授業し、15時半に下校させる小学校が多い。しかし、共働き家庭がほとんどであるため、家に親が不在であり、子どもが放課後に大人の目が届かない状況で放置される時間の増加が安全問題や学校外文化活動への参加機会を失わせる問題が顕在化するようになった。社区教師はこの地域課題、地域住民のニーズを受け止めて、「愛心クラス」事業を企画した。以下では、天興里社区の「愛心クラス」を例にして、活動内容を検討する⁴¹⁾。

天興里社区の面積は8万平方メートル、居民1,513戸、人口は3,518人である。2005年に、社区居民委員会の事務室や総合活動室、障がい者の健康活動センター、売店、社区学校など多機能を有した社区総合施設を建設した。社区総合施設は2階建てで、面積は300平方メートルである。社区教師王恩山先生は社区総合施設の1階にある総合活動室を活用し、図書コーナーを設置し、将棋や風船、卓球用具などを整備し、「愛心クラス」を設立した。毎週火、金曜日の午後15:30-17:00、宿題の指導や読書活動、法律知識における講座、卓球、縄跳びのような遊戯など様々な活動が行われている。参加費は無料で、自由参加であり、子どもの自主性や興味関心が重要視されている。「愛心クラス」の初期段階では社区教師主導の活動は多いが、同じ興味関心を持つ固定参加者集団の形成に従って、活動の企画と運営を子どもに任せているという。社区教師は教える立場より、子どもの活動を支援、助成する役割である。行く場所がないから、単に「愛心クラス」に参加してみるという受動的な態度から能動的に取り組む主体へと転換することもこの社区活動に期待される役割である。また、共働き家庭への子育て支援を行うことに

よって、受益者となる保護者だけでなく、多くの住民から評価を得た。結果として、社区総合施設をよく利用する住民たち、特に定年退職した住民から子どもの宿題を面倒見るボランティアも生まれている。このことは結果的に社区教育の促進にもつながっている。

5. 「素質教育」改革における社区教師制度の有効性

九年間が経過して、和平区の社区教師の派遣は制度として定着してきた。ここでは、社区教師による学校と社区の連携活動を踏まえて、青少年問題の解決を図ろうとする「素質教育」改革にとっての社区教師制度の有効性を、以下の3点から明らかにしたい。

①学校外教育の支援

「素質教育」改革の実施にあたって、児童生徒の学習負担を減らす政策の推進に伴い、学校で宿題量や授業コマ数を減らしてきた。こうした改革が「素質教育」を促進することにつながるかどうかは疑問である。言い換えれば、青少年の自由時間が増えた一方で、放課後の青少年の受け皿が社会的に未整備のため、長時間のテレビ視聴やインターネット、怠業などが増える恐れがある。社区教師は子どもの学びと遊びの場づくりに取り組んでいる。前述した天興里社区のほか、和平区において、多くの社区では社区総合施設が設立された。社区教師は社区総合施設の空間を活用し、図書や文具、スポーツ用品などを備え、子どもの学校外文化活動に自由な空間と施設を提供し、仲間関係づくりの場にもなっている。

2001年から、教育部は「素質教育」の要求に適した新しい基礎教育カリキュラム改革を実施してきた。その中では、青少年の自主学習や、問題分析と解決の能力、交流の能力が強調されており、社会連帯意識、自主性、生活能力を育てるためには、社区及び家庭教育との一体的な指導がより一層必要となってくるだろう。

社区教師は、青少年を進学させるというプレッシャーがないため、青少年の発達要求に応じて、社区の資源を生かし、多様な体験活動を組織することができる。例えば、「楼門」活動では、社区教師は青少年たちに「楼門」という社会体験の場を提供した。社区教師は「楼門」の選定をはじめ、「楼門」長と「楼門」に住んで

いる地域住民の承認を得るまで、各方面に働きかけた。その上で事業の展開は青少年に任せている。青少年の活動の中には「楼門」に住んでいる住民の生活問題を発見し解決するという自治的集団活動の動きが見える。このような自治的集団活動は、青少年の実践能力と自主性を育てる教育的意義があるだろう。

②学校教育への支援

「綱要」で、学校と社区の連携は「素質教育」改革の一環に位置づけられている。しかし、学校と社区はそれぞれの目標を持ち、異なる系統に所属し、教育に対する認識の違いもあるため、学校と社区との間には「壁」が存在する。現状においても、閉鎖的な姿勢をとっている学校及び社区は少なくない。

この問題を克服するためには、学校と社区との双方向的な関係を作るコーディネーターが不可欠である。社区教師は学校から社区居民委員会に派遣されることで、客観的に学校と社区とのつながりを作っている。例えば、社区教師の職場は社区居民委員会である。社区居民委員会は福祉や衛生、文化などの側面で社区に住んでいる住民にサービスを提供することによって、社区住民と密接な関わりを持っている。社区教師は社区居民委員会の仕事への支援を通じて、社区住民と顔なじみになり、社区のもつ教育リソースも把握できる。一方で、社区教師は学校の前教師であるため、学校の事情を理解している。そこで、社区教師によって、学校と社区に関する情報交換が行われている。この情報交換は学校と社区の間の壁に風穴をあけている。青少年科学実践基地の事例を振り返ってみると、友誼里社区の社区教師は天津農学院の元院長が社区の住民であると知ったことをきっかけにして、天津農学院の畑を活用し、青少年の体験の場を作ること提案した。社区教師はこの情報を区内の小中学校に伝えており、小中学校と天津農学院との協力関係が作られた。社区教師は社区の人材と学校とをつなぐコーディネーターの役割を果たしている。学校教育は、社区にある教育リソースを活用することによって、質のよいかつ多様な学習活動を促進することで「素質教育」を推し進めることが期待される。

③教師の教育観の転換

天津市和平区は社区教師における研修制度を備えている。学校の教職員は社区に派遣される前に、1週間の研修を受けなければならない。学校の教職員は学校という閉鎖的な空間で、学校のカリキュラムに従って、青少年のみを対象とする授業を行う。社区での仕事は学校と違って、オープンな空間で、規定されたカリキュラムがないことを前提として、青少年をはじめ社区のすべての住民や社区居民委員会の職員、社区にある機関のメンバーなど複雑な人間関係の下に、各社区の実情にそって、青少年活動を展開する。このような職業的役割をうまく転換するため、社区教師弁公室は社区教育の理論における講習を実施するほか、大学の専門家や社区居民委員会の主任を招いて講座を開く。また、社区教師の研修は学期ごとに1回実施されている。さらに、1週間に1度社区教師工作グループ会議があり、2週間に1度、和平区社区教師の全体会議がある。これらの会議で、社区教師は自分が所属する社区の活動状況を紹介したり、直面した問題を述べたり議論したりして、社区教師同士の交流と学びの場にもなっている。

「素質教育」で重視されている社会实践を実施する場の一つとして社区が位置づけられている。青少年の教育を学校だけに頼らず、地域参加型の教育づくりを形成するため、地域に根ざした学習の充実を重視するという社区教師の教育観の転換と資質・能力の向上こそ原動力であると考えられる。青少年に育成されるべき実践能力、社会性を向上させるためには、社区教師は社会实践や生活体験活動を重視し、社区の人材を積極的に活用し、家庭や社区に対する連携を呼びかける努力が必要である。社区教師の研修はこのような教育観の転換と実践的な指導力の向上に役に立つと期待される。

6. まとめと課題

以上、中国都市部の青少年問題を踏まえ、現代中国教育改革の核心である「素質教育」を考察したうえで、青少年教育を改革することに対して、学校と社区の連携という視点から取り組むことの有効性を論じてきた。本稿で注目したように、社区教師は学校や社区の機関団体、社区住民と連携し、青少年のニーズにあわせて教育活動を展開するほか、親と子どもが一緒に参加する事業も行ってお

り、青少年の自主性と社会性を高めると同時に、「応試教育」に慣れた親の意識を転換するためにも努力している。このように、社区教師制度は地域に根ざした社会実践や生活体験学習の充実を通じて、青少年の実践能力や社会性を向上させるという点で、青少年の全面発達を促進する上で有効であると考えられる。このような活動の展開と定着によって、「素質教育」改革が促進されていく可能性があるといえるだろう。

中国の都市部では小学校の統廃合が進んでおり、中国教育部の教育統計⁴²⁾によれば、2000年における中国都市部の小学校は32,154校から2008年の17,339校へと8年間で約半減している。今後、小学校の統廃合がすすめば、学校の教師数が飽和状態になることが予想できる。このような背景の下で、学校の教員が社区に派遣され、学校の教育機能を社区へと拡張し、学校外教育の機能を発揮し、学校と社区とのコーディネート役を担っている仕組みは人的な教育資源が十分にある都市部にとっては、有益な参考になると考えられる。

一方で、社区教師制度及び学校と社区の連携による「素質教育」の促進の状況を解明するためには、次のような課題が残されている。まず、社区教師による事業に参加している青少年にとって、具体的にはどのような変化が生じているのか。経年的動向も視野に入れた意識調査が必要であろう。また、社区にある各種の団体、専門家、そして社区住民たちはこの社区教師制度をどのように見ているのだろうか。より理解を深め、社区全体へ活動を広げていくために、どのような方策があるのか。そして、社区教師は定期的に人事異動があり、教育局は教師を社区に派遣し、教師たちは1年間後に学校に戻る。学力低下が懸念されるようになっていの中で、社区教師として活動をした教師には学校に戻った後の教育理念や教え方について、どのような変化が見られるのか。これらの問題は本稿で触れることができなかった。天津市和平区をフィールドとして、社区の子ども、社区住民及び学校に戻った教師に対する継続的な調査を実施することで、今後これらの課題を究明したい。

注

- 1) 改革開放政策は1978年以来進められている中国の基本政策。農業の各戸経営、企業自

- 主権の拡大、市場経済の推進、対外改革による外国資本・技術の導入などを内容とする。(新村出編『広辞苑』第六版岩波書店、2008年、p.454)。
- 2) 「素質教育」は「資質教育」と翻訳されることが多いが、本稿では中国語の原語をそのまま用いることにする。「素質教育」の「素質」の概念は人の生まれつきの本来の特徴ではなく、後天的心理素質と社会素質を指す。顧明遠編著『教育大辞典』は広義の素質を「後天的環境や教育の影響の下で形成される、公民あるいは専門的な人材の品格・素養としての質」と定義される。『教育大辞典』上海教育出版社、1990年、p.127。
 - 3) 王炳照『中国教育改革30年』北京師範大学出版社、2009年。
 - 4) 中共中央は中国共産党中央委員会の略称である。國務院は中国の中央政府であり、日本の内閣に相当。
 - 5) 厲以賢「社区教育の推進」(「社区教育的推行」)『教育研究』中央教育科学研究所、1999年第11期、pp.38-42。
 - 6) 王淑敏「学校と社区における相互奉仕の実現」(「努力實現学校与社区双向服務」)『北京教育』北京教育音像報刊總社、2001年第11期、pp.15-16。
 - 7) 倫文強、沈安康、黃雪丹、李鳳蘭「学校と社区教育の一体化における実践と研究」(「“学校—社区教育一体化” 的实践与研究」)『思想・理論・教育』上海市教科院、2004年第3期、pp.52-55。
 - 8) 蔣懷峰、吳金明「学校・家庭・社区の連携による德育の新しいモデルの構築」(「学校与家庭、社区互動構建德育工作新模式」)『思想・理論・教育』上海市教科院、2006年第17期、pp.73-74。
 - 9) 劉淑蘭『学校と社区との連携』(『学校与社区的互動』)四川教育出版社、2003年。
 - 10) 陳至立「児童生徒の学習負担を減らし、全面に素質教育を促進する」(「切实減輕学生过重負担、全面推進素質教育」)『人民教育』中国教育部、2002年2月。
 - 11) 中国青少年研究センター編『中国未成年者データハンドブック』(『中国未成年人数据手冊』) 科学出版社、2008年、pp.141-142。
 - 12) 莫洪憲『中国青少年犯罪問題及び对策研究』(「中国青少年犯罪問題及对策研究」) 湖南人民出版社、2005年、pp.77-78。
 - 13) 牧野篤『中国変動社会の教育—流動化する個人と市場主義への対応—』勁草書房、2006年、p.121。
 - 14) 小皇帝は家庭内で子どもの地位が一番高くなり、小さな皇帝になっているという意味である。
 - 15) 谷迎春『中国都市の「病み」』(『中国城市「病」』) 中国国際廣播出版社、1989年、pp.48-49。
 - 16) 孫雲曉「サマーキャンプの勝負」(「夏令营中的較量」)『読者』甘肅人民出版社、1993年第11期。

- 17) 現在中国教育部の前身。
- 18) 「中国教育報」1993年11月27日付。
- 19) 例えば、「中国教育報」、「当代家庭教育報」、「現代教育報」などがあげられる。
- 20) 蕭宗六「全教会前後における素質教育の比較研究」（「全教会前後素質教育之比較」）『中小学校管理』北京教育学院、2002年2月。
- 21) マルクス主義、毛沢東思想及び鄧小平理論を指導思想として、愛国主義、集団主義や社会主義教育、中華民族の優れた伝統文化や革命伝統の教育、理想、倫理道德および文化的習慣を身につけさせる教育、中国近代史、基本的国情、国内外の情勢や民主・法制教育を行う。
- 22) 教科知識の勉強を中心とする伝統的な教育観を転換させ、科学的精神と創造的な思考習慣を養い、情報を収集処理する能力、新しい知識を獲得する能力、問題を分析し解決する能力、言語による表現能力及び団結協力して社会活動を行う能力を育成する。
- 23) 児童生徒に基本的な運動能力を習得させ、身体鍛練の良好な習慣を形成させる。児童生徒の体育科の時間と学校外の体育活動時間を保障し、多種多様な集団的体育活動を行うことで児童生徒の競争意識、協調精神、強靱な意志を育成する。
- 24) 音楽や美術の学習を通じて、情操や素養を高めることだけでなく、知力の開発を促すことが想定されている。小中学校は音楽と美術科目の勉強を強化すべきである。
- 25) 自然に触れ、社会を理解することで、労働を愛する習慣と苦しみに耐える精神を育成し、労働の知識や技能を身につけさせる。児童生徒が多様な形態の課外の実践活動に積極的に参加することを奨励して、体を動かして働く能力を養う。
- 26) 教育部「義務教育課程の設置に関する実験方案」（「義務教育課程設置実験方案」）2001年。
- 27) 中国教育部の主管に属する教育新聞「中国教育報」の速報ニュースサイトで、「社区教師」をキーワードとして検索した結果、18件のうち、天津市和平区の社区教師に関する記事が最も多く9件を占めている。<http://www.jyb.cn/>、2010年9月30日。
また、「人民日報」の速報ニュースサイトで、「社区教師」をキーワードとして検索した結果、13件のうち、行政指導者の演説を除き、天津市和平区の社区教師に関する記事が最も多く4件を占めている。<http://www.people.com.cn/>、2010年9月30日。
- 28) 「天津市和平区一学校と社会と家庭との架け橋になる社区教師一」（「天津市和平区：社区教師搭起家校溝通橋梁」）「中国教育報」2007年4月4日付。
- 29) 和平区教育局社区教師党支部の程長海氏へのインタビューより（2008年9月23日に実施）。
- 30) 同上。
- 31) 中国において、物質文明すなわち経済建設が重視される一方で、文化や思想、道德など精神的な文明も強調されている。各省、市、区に精神文明弁公室が設置されている。

- 32) 和平区精神文明建設委員会弁公室・和平区教育局社区教師党支部『和平区の社区教師が社区における未成年者の教育活動を展開する典型的な事例集（二）』（2008年、pp.1-80、以下『事例集』）及び和平区内の社区教師4名を対象に実施したインタビュー調査（2008年9月23日-25日及び2010年3月9日-11日）に基づく。
- 33) 中国では一般に2学期制。新学期は9月に始まり、夏休みか冬休みを境に学期を分けるのが普通。
- 34) 『事例集』 pp.35-36。
- 35) ここでの「老」は年を重ね、経験が豊富という意味である。「五老」は老幹部、老解放軍兵士、老専門家、老教師、老労働模範である。
- 36) 「楼門」は集合住宅で、一つの階段を共有する家のまとまりである。
- 37) 少年先鋒隊は中国における共産党の児童の組織である。共産主義青年団は中国共産党指導下の先進的青年の大衆組織である。
- 38) 友誼里社区の社区教師趙春艶氏へのインタビューより（2010年3月10日に実施）。
- 39) 『事例集』 pp.42-44。
- 40) 同上 p.59。「母サロン」は親子交流の場を提供し、子育て支援を行っている。
- 41) 天興里社区の社区教師王恩山氏へのインタビューより（2010年3月11日に実施）。
- 42) 中国教育部のホームページにより、<http://www.moe.edu.cn/>、2010年9月30日。

The Promotion of “Quality Education” through School-Community Cooperation in China: A Focus on the Community Teachers’ System of Heping Ward, Tianjin

Yanni JIA

This study focuses on the promotion of “quality education” in China, which is achieved through cooperation between elementary and junior high schools and the community, by analyzing the activities of children’s daily life in the community outside the school.

Since the reform and opening policies were carried out in the 1980s, China has shifted from a planning economy to market economy; however, with the rapid development of the economy, together with an overemphasis on educational qualifications, adolescent problems such as truancy, assault, and crime are becoming increasingly widespread in the society. Therefore, instead of “examination-oriented education”, which is merely the cramming of knowledge, quality education has been advocated as a policy of educational reform in China. However, for this educational reform to be carried out perfectly, it is not sufficient to rely only on schools. An educational system with the join the entire social has been drawing increasing attention recently and an attempt is being made to establish it.

However, numerous studies on quality education and school-community cooperation in China focused only inside schools. Few studies focused on the community. In this study, in order to promote the healthy development of youth, on the basis of the process of quality education reform, the validity of the youth education reform was discussed by efficiently using the community, the lowest level of a city’s division. Special attention is focused on the method of cooperation by the community teachers’ system of Heping Ward, Tianjin.